

## オランザピンOD錠10mg「JG」の安定性試験(無包装)

### 1.試験目的

オランザピンOD錠10mg「JG」について、下記条件にて保存した検体について安定性を確認した。

### 2.保存条件

- ・温度に対する安定性試験:40±2°C/75±5%RH 3ヵ月〔遮光・気密容器〕
- ・湿度に対する安定性試験:25±2°C/75±5%RH 3ヵ月〔開放〕
- ・光に対する安定性試験:120万lx・hr(2500lx[D65]・20日) 25±2°C/45±5%RH〔開放〕

### 3.試験項目

性状、純度試験(類縁物質)、崩壊性、溶出性、含量、硬度<参考値>

### 4.評価方法

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(平成11年8月20日(社)日本病院薬剤師会学術第5小委員会)の評価分類基準に準じる。<安定性の評価基準の項参照>

### 5.試験結果

		規格	試験開始時	1ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後
温度	性状	黄色の素錠	適合	変化なし	変化なし	変化なし
	純度試験	※	適合	適合	適合	適合
	崩壊性	1分以内	適合	適合	適合	適合
	溶出性(%)	45分75%以上	90.3(88.8-92.2)	91.1(88.6-93.3)	90.6(88.6-92.0)	90.4(89.2-92.1)
	含量(%)	95.0~105.0%	99.7	98.0	99.1	99.1
		[残存率]	[100]	[98.3]	[99.4]	[99.4]
	硬度(N)	<参考値>	26.8	30.4	28.0	29.5
評価			—	◎	◎	◎
湿度	性状	黄色の素錠	適合	変化なし	変化あり (規格内) <sup>(1)</sup>	変化あり (規格内) <sup>(1)</sup>
	純度試験	※	適合	適合	適合	適合
	崩壊性	1分以内	適合	適合	適合	適合
	溶出性(%)	45分75%以上	90.3(88.8-92.2)	72.0(70.8-73.7)	68.3(67.7-69.1)	67.1(66.2-67.5)
	含量(%)	95.0~105.0%	99.7	99.1	99.3	98.7
		[残存率]	[100]	[99.4]	[99.6]	[99.0]
	硬度(N)	<参考値>	26.8	16.6	16.1	17.6
評価			—	△	△	△
		規格	試験開始時	曝光(30万lx・hr)	曝光(60万lx・hr)	曝光(120万lx・hr)
光	性状	黄色の素錠	適合	変化なし	変化なし	変化あり (規格内) <sup>(2)</sup>
	純度試験	※	適合	適合	適合	適合
	崩壊性	1分以内	適合	適合	適合	適合
	溶出性(%)	45分75%以上	90.3(88.8-92.2)	85.9(84.5-87.2)	86.0(84.8-87.0)	87.3(85.8-88.2)
	含量(%)	95.0~105.0%	99.7	99.3	99.1	98.4
		[残存率]	[100]	[99.6]	[99.4]	[98.7]
	硬度(N)	<参考値>	26.8	21.2	20.9	21.3
評価			—	◎	◎	○

溶出性:平均(最小-最大) 硬度:1N≒0.1kgf

※ 試料溶液のオランザピンに対する相対保持時間約0.24及び相対保持時間約0.97の類縁物質の量はそれぞれ0.3%以下、相対保持時間約0.37及び相対保持時間約0.46の類縁物質の量はそれぞれ0.2%以下であり、上記類縁物質以外の量はそれぞれ0.2%以下である。また、類縁物質の合計量は1.0%以下である

(1) 試験開始時と比較して、錠剤の表面が赤みを帯びていた

(2) 試験開始時と比較して、錠剤の表面の色が濃くなっていた

6.結論

湿度条件において溶出率及び硬度の低下(規格外)と性状の規格内変化が認められた。また光条件において性状の規格内変化が認められた。

なお、本剤の電子添文に以下の記載がある。

20.取扱い上の注意

開封後は湿気を避けて保存すること。

安定性の評価基準

安定性の評価は、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」に記載された試験項目毎の評価基準に従って行った。

【性状】

分類	評価基準
変化なし	外観上の変化を、ほとんど認めない場合
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合
変化あり(規格外)	形状変化や著しい変化を認め、規格を逸脱している場合

【純度試験・崩壊性・溶出性】

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【含量】

分類	評価基準
変化なし	含量低下が3%未満の場合
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【硬度】

分類	評価基準
変化なし	硬度変化が30%未満の場合
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)以上の場合
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)未満の場合

安定性の評価分類

安定性の評価分類は、原則として無包装状態での安定性試験における、保存条件、試験項目および試験結果から、下記の評価分類に従って分類した。

試験結果	評価
測定された全ての試験項目で変化を認めない	◎
いずれかの試験項目で、「規格内」の変化を認める	○
いずれかの試験項目で、「規格外」の変化を認める	△

※平成11年8月20日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(日本病院薬剤師会)に準ずる。

2024年1月

003